

持続可能な農業経営に向けて

～ 輪作の推進と花き生産力維持 ～

対象：岩見沢市栗沢町 越前・自協地区（22戸）

1 活動の背景

越前・自協地区は、水稲・畑作を主体に野菜、花き（特にひまわり）の生産が盛んな地域である。

基幹作物の秋まき小麦は過作傾向（図1）である。原価分析による適切な作付構成及び輪作体系の構築、高位安定生産に向け、乾田直播水稲などの技術改善が求められる。

花きは、省力・軽労技術を検討し、導入支援する必要がある。

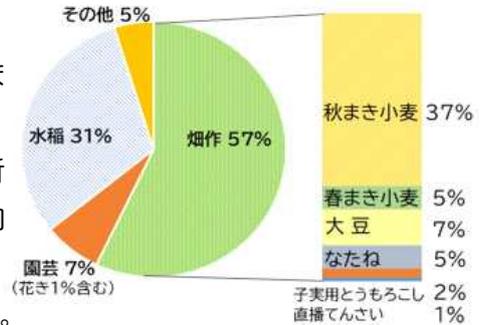


図1 越前・自協地区の作付耕成 (R2)

2 活動の経過

表1 推進事項ロードマップ

推進事項	目標事項	主な活動方法及び内容											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
輪作の推進	原価分析による課題整理			● 研修会			● 入力会	集計・返却					
	基幹作物の技術改善		生育調査・情報発信							生育調査		● 懇談会	
	輪作品目の導入拡大	● 講習会	● 乾直は種巡回		乾直生育調査					聞き取り調査		● 戸別データ返却	
花き生産力の維持	省力・軽労技術導入農家戸数		自動換気ハウス生育品質調査										
共通		戸別巡回（土壌診断・輪作・花き）											
				● 現地研修会								● 冬期研修会	

3 成果の具体的内容

輪作の推進

原価分析による課題整理

原価分析実施農家戸数 目標5戸→実績5戸 到達度100%

5戸が原価分析に取り組み、各品目の生産費や収益性を整理した（図2）。また、分析データを基に情報交換を行った（写真1）。

冬期研修会を通じて実施農家から取り組みの有用性が周知され、継続・拡大する意向となった。

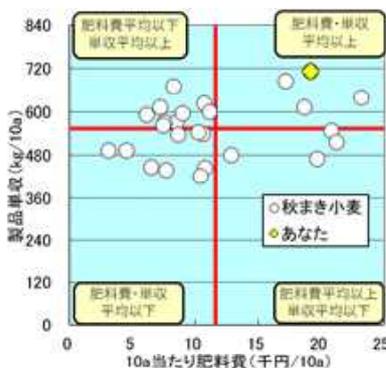


写真1 農業者間で情報交換



毎年優秀な農家とじっくり見比べてたい！輪作体系の検討材料として活用していきたいな！

図2 秋まき小麦の肥料費と製品単収

基幹作物の技術改善

土壤分析実施農家戸数 目標10戸→実績10戸 到達度100%

戸別巡回や現地研修会（写真2）でpH矯正の必要性について理解が深まり、土壤分析実施戸数が1戸から10戸となった。農業者は分析結果に基づいた土壤改良資材を施用した。



写真2 現地研修会

輪作品目の導入拡大

直播水稻導入農家戸数 目標2戸→実績3戸 到達度150%

春先の強風条件でも安定した苗立と生育を確保し(図3)、収量はJA平均を上回った(図4)。次年度は3戸中2戸が面積拡大意向となり、導入予定者が1戸増加した。

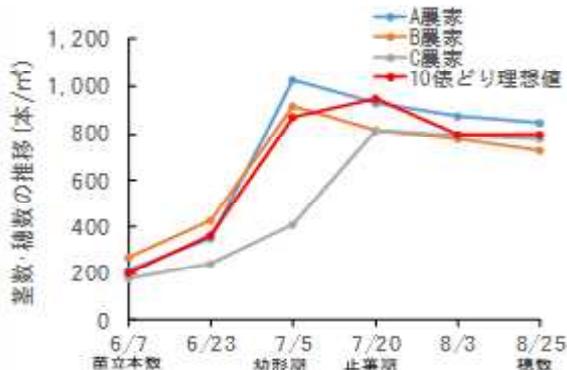


図3 直播水稻の茎数推移



図4 品種別直播水稻の収量

重点農業者



この地域でも直播水稻を栽培できるんだね！来年から栽培してみるよ！

花き生産力の維持

省力・軽労技術の導入

省力・軽労技術導入農家戸数 目標2戸→実績1戸 到達度50%

自動換気装置（写真3）を1戸が導入し、省力・軽労化の観点から導入農家に好感触だった。現地研修会で収穫かご（写真4）や葉取り機（写真5）の情報提供を行い関心が高まった。



写真3 自動換気装置



写真4 収穫かご



写真5 葉取り機

4 今後の課題と対応

原価分析による課題整理

実施農家戸数増加
中長期輪作計画策定
生産技術の合理化



基幹作物の技術改善

秋まき小麦の生育に応じた追肥技術の推進



輪作品目の導入拡大

直播水稻の安定生産技術実践支援
新規品目提案



花き生産力の維持

経営分析を通じて生産技術合理化に向け支援継続

